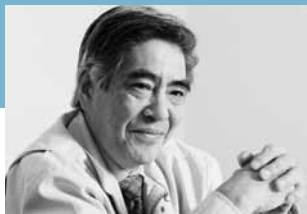


# 元気なモノづくり企業300社に ストーンワークスが選定！

## STONEWORKS



代表取締役 上中 誠

「ものづくり職人に徹したい。  
努力とは……  
自分を高めるためにするものだ」

株式会社  
ストーンワークス  
STONEWORKS



▲緑化整備された鹿児島市電軌道敷

経済産業省が5月29日発表した2007年版「元気なモノづくり中小企業300社」に地元大崎町野方の『株式会社ストーンワークス』が見事選定されました。これは、日本の活力を生み出すモノづくり中小企業の姿を広く示し、若年層にも関心を持ってもらうことを目的とするもので、九州・沖縄から24社、鹿児島からは4社が選ばれました。ストーンワークスは、シラスを主原料にした製品を多数実用化しており、緑化用資材をはじめ、公園・歩道の舗装資材、土木関連資材など、県内外でも広く採用されています。現在、全国でも最も長い鹿児島中央駅から鹿児島駅間1・7キロの軌道敷全面緑化が進行中で、平成20年度からは、長崎市でも軌道敷緑化を予定しています。地元で立脚した商品開発を目指すストーンワークスの上中誠社長に突撃インタビューを申し込んだところ、こころよく応えてくださいました。

**広報** 早速ですが、今回、表彰を受けられました。緑化基盤を作り上げるまでに苦労されたことは何ですか？

**上中** 昭和52年に帰郷して、左官工事請負を目的に上中工務店を設立しました。在来工法、木造住宅全盛の時代から既成パーツを基本とする新建材時代へ移行するなか、独学で人造大理石の製法を確立し、平成2年、現在のストーンワークスを設立しました。九州一円を市場として順調にスタートしたのですが、バブル崩壊による公共事業の低迷と、輸入石材の緩和により、売り上げが落ちていきました。

そこで、新商品の開発をすることに  
なるのですが、平成12年よりエコ商品



開発を始め、技術指導を受けるために県工業技術センターに行き、そこで、シラス研究では日本でも第一人者と呼ばれる、主任研究員の袖山研一さんとの出会いによってシラス研究がスタートしました。

**広報** それは、運命の出会いと言っていいですか？

**上中** シラスを資源として有効活用するための研究は、すでに昭和28年ごろから多くの研究者、先人たちによりなされてきましたが、シラスは、川砂・海砂に比べ、骨材としては多くの欠点があり、協業製品化など夢のまた夢とまで言われていました。

しかし、新しく開発した「ゼロスランプ加圧製法」により、実用化に成功し、昨年9月に特許登録されました。現在でも袖山さんとの共同研究は進行中で、特許庁で最終審査中の特許2件、商標登録1件を出願しています。まさに、運命の出会いと言っていいでしょうね。

**広報** すごい出会いだったんですね。それでは、上中社長の夢をお聞かせください。

**上中** ずばり、いち企業から地域資源

活用型の産業に育てることが夢ですね。地域にある資源を有効活用しようと思えば、まだまだたくさんあるんじゃないですか。これを活用しないのはもったいないですよ。モノづくりに終わりはありません。

**広報** 夢があるから、先を見据えて行動できるんですね。それでは最後に、今の若者に伝えたいことはないですか？

**上中** そうですね。私自身、ほぼ10年ごとの試練と転機を繰り返しながら、モノづくりを通し、社会に貢献できる企業を目指してきましたが、中小企業にとって「人・物・金」すべてにおいて大企業に劣りますが、いい技術さえあれば、互角に、またそれ以上の立場で、存在価値を十分に示すこともできる。「人・物・金」はなくとも、必ず平等にある「時間」をどう生かすか、その時々をどう生きるかが重要であることを伝えたいですね。



▲人と環境にやさしい緑化基盤